

高泌乳牛への TMR 給与での トウモロコシサイレージの最大給与量

我が国の酪農経営は、飲用牛乳の消費量の低迷、輸入飼料価格の高騰・高止まりなどにより厳しい状況にあり、経営の改善を図るためには、自給飼料を見直し、それを最大限に活用することによって飼料費の低減化を実現することが重要な課題となっています。そこで、栃木県畜産酪農研究センターでは、高泌乳牛が高エネルギー自給飼料であるトウモロコシサイレージを TMR 給与で最大限に活用できる給与量を検討し、最大給与量が給与飼料乾物中 60%（原物 40kg）であること明らかにしましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. トウモロコシサイレージの給与量を高（原物 50kg：乾物飼料中 76%）、中（40kg：60%）、低（30kg：45%）の3区を設定し、2産以上の泌乳中期牛6頭を供試し、I期21日の3×3ラテン方格法による飼養試験を行いました。各区は、供試牛の養分要求量を満たすよう配合飼料と混合し、TMRで給与、自由採食としました。
2. 高区、中区、低区における TMR の乾物率および中性デタージェント繊維はそれぞれ 44.3、49.3 および 55.3%DM、39.4、36.7、34.1%DM で、乾物率が低く、中性デタージェント繊維が高い試験区において飼料の乾物摂取量が低下する傾向を示しました。
3. 乳量および無脂固形分率は、高区、中区、低区でそれぞれ 32.9、35.6、37.7kg/日、8.29、8.48、8.59%でした。
4. 1日1頭当たりの飼料費は、低区、中区、高区の順に低減されました。また、乳飼比は高区で他の2区に対し有意に低い値を示しました。



写真1 飼料用トウモロコシ

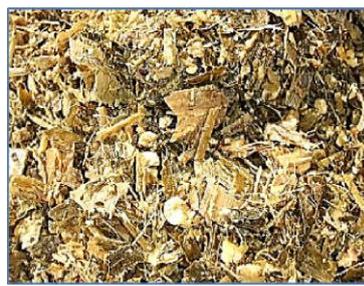


写真2 高エネルギートウモロコシサイレージ



写真3 トウモロコシサイレージの多給試験

☆ 活用面での留意点

トウモロコシサイレージを原物で 40kg 以上の多給を行うと、乾物摂取量が低下してエネルギー不足が生じる可能性があります。詳しくは、栃木県畜産酪農研究センター乳牛飼養研究室（TEL：0287-36-0230）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）